

# ベトナムの道教信仰と 正月行事

大西和彦  
アジア国際交流奨学財団研究員

慶應義塾大学言語文化研究所2025年度公開講座  
『ベトナムと中国文化：道教系宗教文化の受容と展開』  
2025年10月4日（土）

1

## はじめに：道教とは何か

道教：不老長寿のような現世利益追求を目的とする中国の宗教。

**神仙思想**：不老長寿などの超能力を得た超人「神仙」を目指す、道教の中核思想。

李少君（？～BC.131）が、漢の武帝（BC.141～BC.87）に説いた神仙思想：

**カマド神**を祭祀⇒**丹砂**（硫化水銀）を黄金に変化できる。⇒その食器で長寿を得れば、  
仙島「**蓬萊**」の仙人「**安期生**」に会える⇒不死になれる。（『史記』孝武本紀）

**仙薬**：不老長寿薬を服用して神仙になることを目指す。

仙薬原料：丹砂・黄金・真珠・**肉桂**（シナモン）・**菖蒲**など（『神農本草経』『抱朴子』など）

**道教教団**：

張陵（？～177）の**天師道**⇒本拠は龍虎山（現江西・福建省境）：福建と交州（古代ベトナム）往還盛ん

↓

・病氣治療のために、天官・地官・水官の**三官神**を祭祀。

2

# I. ベトナムの道教信仰

## 道教のベトナム伝播①: 中国人の移民による

- ① 2世紀「後漢の靈帝が崩御(189年)後、天下は混乱したが交州(現ベトナム北・中部)だけがやや安定していた。北方の特殊な能力のある人は皆ここに滞在したが、彼らの多くは神仙・辟穀(へきこく: 米など五穀を断ち超人的能力を得る修行)・長生の術を行い、当時**これらを学ぶ人々が多かった。**」(牟子『理惑論』)
- ② 4～5世紀、天師道の信徒で武将の孫泰(?～398)・孫恩(?～402)・盧循(?～411)が広州(現在の広東省と周辺地域)の長官であった間に布教したので、**交州の平野・山地の人々も天師道になった。**(『晋書』巻100、孫恩伝)
- ③ ～12世紀「秀才(しゅうさい: 科挙応募者)・仏僧・**道士**・配隸(はいれい: 流刑者)が、(李朝ベトナム[1009～1225])に亡命し逃亡する者が甚だ多い。(中略)これを士人の南遊」という。) (范成大[1126～93]『桂海虞衡志』[1175年自序])

3

## 道教のベトナム伝播②: 仙薬原料を求めて: 神仙「安期生」の南遷 不老長生薬原料を採集しベトナムに向かう中国人道士たちの隠喩



4

## 中国人道士をベトナムに引き付けた物①

丹砂：硫化水銀：HgS

葛洪（かっこう：283～343）  
中国神仙思想の大成者の  
ベトナム志向

「(前略)年老いるを以て、丹を練り以て遐寿(長寿)を祈らんと欲し、交趾(ベトナム紅河中下流域)に丹の出ずるを聞き、句漏の令と為ることを求む。

(『晋書』卷七十二、列伝四十二、葛洪伝)



5

## ベトナムの丹砂(東北部クアンニン省周辺)

ベトナムの丹砂鉱脈帯と  
関連遺蹟



ベトナムの朱井遺蹟  
玉清観（クアンニン省）正殿後背トレンチH02



6

## 中国人道士をベトナムに惹きつけた物② シナモン：肉桂

林邑は南海交易の産品原産地②：肉桂：シナモン  
林邑の首都典沖城(Sinhapura：現チャーキエウ[茶  
薺])周辺の肉桂を服用した神仙「桂父」

其の城の隴壑(ほり)の外、  
林のごとき棘(いばら)荒(み  
だ)れし蔓(かずら)、榛梗(ざ  
っそう)冥(くら)く鬱(しげ)り、  
藤は盤(わだかま)り篁(たけ)  
は秀いで、參錯(いりみだ)れ  
て天に際(まじ)われり。

其の中の香れる桂は林を成  
し、氣清く煙澄みたり。

桂父は(象林)縣の人なり。  
此の林に棲(す)み居り、桂を  
服して道を得たり。

(『水経注』卷三十六、温水の条)



四世紀ベトナム中部  
林邑の領域



7

## I 一② ベトナムの道教：ベトナムにおける中国道教の展開 ベトナム北部の代表的道観「靈仙観」 (ハノイ市西郊ホアイドゥック県カオサー村)

### 靈仙観正門



靈仙観所蔵の天師道の主神  
三官(天官・地官・水官)像



8

## 『靈仙觀碑』

「趙の時(紀元前207～111)、南帝と呼ばれた呂嘉がこの郷を訪れ、仙人が暮を打っているのを見た。

乗り物を降りて再拝したところ、仙人たちは飛んで天に昇っていった。それにちなんで、皇帝は靈仙觀を建てた。

その時、神秘的な龍が現れてここに丹砂の穴を作り出し最も靈妙な場所となったのである。

李奕(りえき)という法師が、若い時からこの道觀で修行し、ニラ(韭)を食べつつ日夜『玉皇本行經』の呪文を唱えた。その後、ニラは石の上で眞浦に変化したので、法師は眞浦を食べて白屋に天へ昇った(後略)」

(1618年(弘定十八年)の書き加え部分)



9

## 靈仙觀の朱井と九天玄女の神輿

左側：九天玄女の神輿



九天玄女神輿下の朱井



10

## 道教の軍神「九天玄女」信仰の発展

### 17世紀、鄭(北部)・阮(南部)戦争(1627～1672)の影響

北部の鄭氏政権(1592～1786)下で  
火薬銃庫の守護神となる九天玄女

南部の阮氏政権(1558～1777)下の九天玄女信仰  
ニヤツレ(日麗)江河口兩岸の九天玄女祠  
(『同慶御覽地輿誌圖』広平省図に記入)

「伝えられるところでは、(九天玄女は)天を開き地を立てられた。李朝時代に至ってタンロンに遷都した時、歴代皇帝は、神を倉庫の主とした。

そのため薬場祠(銃火薬庫の神祠)と皆が初めて呼んだ。」

(ハノイ市の旧カーンスアン(看春)村  
デイン(亭:鎮守社)『神蹟』より)



11

## 鄭阮戦争後における九天玄女信仰の発展 九天玄女は宇宙樹として天地を繋ぐ信仰対象となる

### 九天玄女神像

(ベトナム北部フンイエン省ホーヒエン市の九天玄女祠)



### ハノイ市の建初寺香炉台の銘文

(1695年:正和十五年記年)

- ・「讃(たた)えて曰く、玄女の身は前(さき)に樹に化し、天に幸(かがや)いて後、望(みあげ)て拝(ぬかず)き祈らる」



\*17世紀末、九天玄女が前身が樹木、後身は天神との認識が示されている。

⇒九天玄女は宇宙樹の化身。

\*この銘文は当時の社会で、九天玄女が、天地をつなぐ＝<天の神界に地上の人々の願いを伝える>存在であるとの信仰の普及を象徴する。

12

# 1－③「ベトナムの道教」から「ベトナム道教」へ 中国道教神の三官⇒ベトナムの三府神

三府靈祠

1602年頃建立タイー寺(ハノイ市)

天府座像(男性神として表現される)  
(タイー寺三府靈祠所蔵)

13

## I－④ 17～18世紀「ベトナム道教」の発展 三府神主神の女神化⇒聖母道の女神「マウ:母」

三府聖母

(左:白)水宮聖母(中:赤)上天聖母(右:緑)上岸聖母  
柳杏聖母

四府聖母

左から地聖母(黄)上岸聖母(緑)上天聖母(赤)水宮聖母(白)



14

## ベトナム道教の展開

聖母道(ダオマウ)⇒道教とシャーマニズムの結合

「三府共同四府万霊図」の聖母道諸神  
(ハンチョン絵画)



左『三府共同四府万霊図』の神々名称

玉女 観音菩薩 金童  
水・天・地・岳四府の玉皇上帝  
柳杏(上天)、上岸、水宮三聖母  
五位大官  
四位朝婆  
第一、第七、第三、第十皇子  
四府姑・舅

15

聖母道の主神「柳杏聖母」座像  
(クアンニン省チャーコー市万霊慶寺所蔵)



16

## 柳杏聖母の聖地「フーザイー」(ナムディン省) の大祭における演目「ケオーチュー」(人文字)



17

## 聖母道の神霊を憑依する霊媒： バードン(婆童)

五位大官が憑依したバードン



天府の朝婆が憑依したバードン



18

## 岳府：山林神界の神々を憑依する霊媒

岳府の女神が憑依した  
霊媒（バードン：婆童）



岳府の若い男神：舅（カウ）が憑依した  
霊媒（バードン：婆童）



19

## I ベトナムの道教信仰：小結

①道教のベトナムへの伝播：中国からの移民と仙薬原料を求める道士の南下

②ベトナムの道教：ベトナムにおける中国道教の受容と展開

神仙思想：不老長寿を求める⇒霊仙観の朱砂の井戸

中国道教神への信仰：三官神・九天玄女・玉皇上帝

③ベトナム道教：ベトナム独自の道教形成と発展

聖母道：中国道教の天地水三官から三府⇒神界主神の女神化

18世紀に岳府（山岳の神界）が加わり四府となる

④ベトナム社会の道教への傾斜

仏教⇒仏僧の神仙化と道士兼任 儒教⇒入門時の護符服用

20